令和3年度 高知県立坂本龍馬記念館 連続講演会

令和3年度連続講演会

「坂本龍馬を考える5つの視座」

聴講無料

近年、歴史学においては、新しい資料の発見や新たな分野からのアプローチなどにより、今まで定説と考えられていたことや「謎」といわれていたことに、新たな説が発表されています。当館が開館して、今年で開館30年を迎えますが、この間にも坂本龍馬や幕末維新に関しても、新たな資料や研究成果が発表されています。
今年度の連続講演会では、「龍馬を考える5つの視座」と題し、坂本龍馬の生涯や業績を、開館から30年の間の様々な資料からみた研究成果などから、新しい龍馬像を考えてみたいと思います。

第1回 6月12日(土) 佛教大学歴史学部名誉教授 **青山 忠正** 氏
木戸と大久保の呉越同舟 ―薩長同盟からの帰り道―

第2回 8月28日(土) 神田外語大学外国部学部准教授 **町田 明広** 氏
薩摩藩と坂本龍馬

第3回 10月23日(土) 麗澤大学国際学部 **黒須 里美** 氏
龍馬の時代の人口と家族

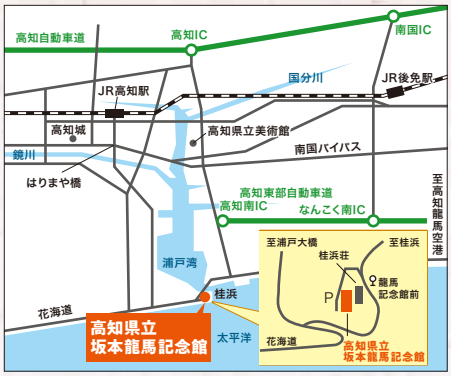
第4回 12月11日(土) 歴史作家・武蔵野大学政治経済研究所客員研究員 **桐野 作人** 氏
龍馬暗殺はなぜ起こったか ―近江屋事件の政治力学―

第5回 令和4年 2月26日(土) 坂本龍馬研究家 **知野 文哉** 氏
龍馬伝の誕生 ―坂崎紫瀾と「船中八策」を中心に―

場所／高知県立坂本龍馬記念館 新館ホール
時間／各回ともに 13:30～15:30頃（質疑応答含む）※開場13:00
対象／一般（概ね高校生以上）
定員／各回ともに先着 50名（要事前申込）
申込方法／高知県立坂本龍馬記念館までお電話・メール・FAXでお申し込みください。
FAX・メールの場合は「お名前・ご住所・お電話番号・聴講希望回」をお書きください。
メールの場合は件名に「連続講演会聴講希望」とお書きください。

＊新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員減、中止、変更などを行う場合がありますので、予めご了承ください。なお、その場合は当館ホームページでお知らせいたします。

★講演会を聴講される方には、無料観覧券を進呈いたします。当日受付でお申し出ください。
★終了後、オンライン配信する講演会もございます。ぜひご利用ください。（期間限定。詳細は当館ホームページをご覧ください。）



■JR高知駅からとさでん交通バス「桂浜」行、「龍馬記念館前」下車徒歩約2分
■高知駅発着で龍馬記念館などをめぐるバス「MY遊バス」（1日乗り放題）もご利用いただけます
■車：高知龍馬空港から約25分、高知自動車道高知インターから約

主催・問い合わせ先
高知県立坂本龍馬記念館（公益財団法人高知県文化財団）
〒781-0262 高知県高知市浦戸城山830　TEL（088）841-0001　FAX（088）841-0015
ホームページ https://ryoma-kinenkan.jp　メール ryoma@ryoma-kinenkan.jp

高知県立坂本龍馬記念館 The Sakamoto Ryoma Memorial Museum

高知県立坂本龍馬記念館 検索

講演内容及び講師紹介

第1回　6月12日土　木戸と大久保の呉越同舟 －薩長同盟からの帰り道－

佛教大学歴史学部名誉教授

青山 忠正 氏

講師からのメッセージ

慶応2年（1866）正月21日、薩長同盟に関わる交渉を終えた木戸孝允は京都を出立、大坂に下って中之島の薩摩屋敷に投宿した。木戸は23日、そこで龍馬宛の書簡を書き、同盟6カ条をまとめる。屋敷には大久保利通も逗留していた。2人は24日深夜、大坂港から薩摩船に搭乗、藩地に向かう。屋敷と船中で顔を合わせながら、2人は今後の方針について何を話しなったのだろうか。これまで知られていない、2人の帰り道を覗いてみよう。

プロフィール

1950年東京都生まれ。1983年東北大学大学院文学研究科博士課程修了。同年、東北大学助手。大阪商業大学助教授、佛教大学助教授、教授を経て、現在は佛教大学名誉教授。博士（文学・東北大学）。明治維新期の政治史を専攻。主な著書に『明治維新と国家形成』（吉川弘文館、2000年）、『明治維新の言語と資料』（清文堂、2006年）、『高杉晋作と奇兵隊』（吉川弘文館、2007年）、『日本近世の歴史6　明治維新』（吉川弘文館、2012年）、『明治維新を読みなおす』（清文堂、2017年）など多数。

第2回　8月28日土　薩摩藩と坂本龍馬

神田外語大学外国部学部准教授

町田 明広 氏

講師からのメッセージ

坂本龍馬の縦横無尽な活躍には、最大の雄藩である薩摩藩の後ろ盾があったと考えます。そもそも、龍馬は浪人として自由な活動が可能であったのでしょうか。本講演では、龍馬の帰属を意識し、脱藩後に薩摩藩士となっていた可能性を、その後、脱藩は赦免となりながら土佐藩に復籍を果たせなかった経緯を追求します。また、龍馬の薩長同盟や大政委任に対する関りを再検証し、また薩土盟約における龍馬の重要性にも言及します。幕末期に匹敵する、大きな歴史のうねりに直面する私たちは、今こそ、龍馬に学び、様々なヒントと勇気を得たいと思います。

プロフィール

昭和37年（1962）生まれ、長野市出身。日本近現代史（明治維新史）研究者、神田外語大学外国語学部国際コミュニケーション学科准教授・日本研究所副所長。明治維新史学会理事・事務局長、博士（文学）。著書に『幕末文久期の国家政略と薩摩藩―島津久光と皇政回復』（岩田書院、2010年）、『島津久光＝幕末政治の焦点』（講談社選書メチエ、2009年）、『攘夷の幕末史』（講談社現代新書。2010年）、『グローバル幕末史』（草思社、2015年）、『歴史再発見　西郷隆盛　その伝説と実像』（NHK出版、2017年）、『薩長同盟論』（人文書院、2018年）、『新説　坂本龍馬』（集英社インターナショナル、2019年10月）

第3回　10月23日土　龍馬の時代の人口と家族

麗澤大学国際学部

黒須 里美 氏

講師からのメッセージ

龍馬の時代に生きた人々のライフコースに歴史人口学のアプローチで迫ります。江戸時代後期から幕末に残る宗門・人別改帳などを活用することで、歴史の教科書には登場することのない庶民の家族と生き様を描く事ができます。龍馬の時代は、早婚で、誰もが一度は結婚する、また離婚・再婚文化があったともいえるほど結婚が流動的な社会でした。歴史人口資料が語る平均寿命40年に満たない時代の庶民の人口学的実態に迫り、現代家族への継続性と非継続性を考えます。

プロフィール

千葉県旭市出身。米国ワシントン州ワシントン大学社会学科博士課程修了（Ph.D.社会学）。国際日本文化研究センター助手、独国マックスプランク研究所（ベルリン）、ハーバード大学ライシャワー研究所客員研究員などを経て現職。専門は歴史人口学・家族社会学。宗門・人別改帳から構築した歴史人口ビッグデータを利用し、長期的・比較的視点から個人と家族と社会のつながりを研究。著書にSimilarity in Difference: Marriage in Europe and Asia, 1700-1900 Cambridge, Mass.: The MIT Press（共著、2014）、『歴史人口学から見る結婚・離婚・再婚』（編著、2012）他、学術論文多数。

第4回　12月11日土　龍馬暗殺はなぜ起こったか －近江屋事件の政治力学－

歴史作家・武蔵野大学政治経済研究所客員研究員

桐野 作人 氏

講師からのメッセージ

坂本龍馬と中岡慎太郎が暗殺された「近江屋事件」は古くて新しい問題だと考えています。何が新しいかといえば、事件の起きた慶応3年（1867）を通説とは異なる政治的な文脈で読み解く必要があるという意味からです。今回はこの新しい政治的文脈に「近江屋事件」を置いて考えてみます。

そのなかで、龍馬と一緒に落命した中岡慎太郎の立場や龍馬との関係はどのようなものだったのかも合わせて考えてみます。高知県の方々にとっても興味深いテーマだと思います。

プロフィール

1954年鹿児島県生まれ。出版社編集長を経て歴史作家。幕末維新史と織豊時代を中心に著述や講演・講座などの講師をつとめる。主な著書は『龍馬暗殺』（吉川弘文館）、『さつま人国誌』幕末編1～7（南日本新聞社）、『孤高の将軍　徳川慶喜』（集英社）、『織田信長―戦国最強の軍事カリスマ―』（KADOKAWA）、『本能寺の変の首謀者はだれか』（吉川弘文館）など多数。

第5回　令和4年 2月26日土　龍馬伝の誕生 －坂崎紫瀾と「船中八策」を中心に－

坂本龍馬研究家

知野 文哉 氏

講師からのメッセージ

明治以降、坂本龍馬の伝記は、それぞれの時代の語り部によって史実が選択、加工され、その時代の空気を反映した物語として語られてきました。最初の龍馬伝は、坂崎紫瀾による自由民権運動の先駆者としての語りです。その後、龍馬は明治国家の生みの親として語られるようになりますが、その語りの中で誕生したのが「船中八策」という伝説でした。そして龍馬の語り部は、岩崎鏡川、平尾道雄、司馬遼太郎と受け継がれてゆきます。今私たちがイメージする坂本龍馬像はどのようにして出来上がってきたのでしょうか。坂崎紫瀾と「船中八策」をキーワードに考えてみたいと思います。

プロフィール

1967年熊本県出身。佛教大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。少年時代からの坂本龍馬好きが高じ、会社勤めの傍ら明治維新史の研究にあたる。

2013年に上梓した『「坂本龍馬」の誕生―船中八策と坂崎紫瀾―』（人文書院）で、第24回高知出版学術賞を受賞した。